

# 世田谷・九条の会

世田谷・九条の会 ニュース No.52 2019年2月27日発行 (題字 西山簡石)	●事務局 〒154-0017 世田谷区世田谷 1-11-16 世田谷民商気付 Tel:03-6413-9547 Fax:03-6413-9548 Mail:setagaya-9jou@kzh.biglobe.ne.jp ●ホームページ <a href="http://www7a.biglobe.ne.jp/~setagaya-9jou">http://www7a.biglobe.ne.jp/~setagaya-9jou</a> ●郵便振替口座 記番号 00110-5-260741 世田谷・九条の会
---	--

## 安倍政権による改憲の阻止、さらに退陣の年へ

清水雅彦

一昨年5月3日に安倍首相が憲法9条に自衛隊を明記するいわゆる「加憲」を提案し、自民党は昨年3月の党大会までに4項目の改憲条文案をまとめました。安倍政権は昨年中の国会発議を狙っていましたが、改憲反対の運動の力と自民党の敵失でかきませんでした。とはいえ、執念深い安倍政権ですから、今年はまだ改憲はないと安心してはいけません。

今回の9条改憲論は、安倍首相が言うような単なる現状追認論ではありません。9条に自衛隊の存在を明記することは、憲法上「自衛隊違憲」が言えなくなることを意味します。憲法学界では自衛隊違憲論が多数派であり、このような議論があったことで、自衛隊は軍隊ではない、専守防衛に徹する、海外派兵や集団的自衛権の行使はできないという歯止めをかけてきました。今回の改憲論は、このような歯止めをなくし、「戦争法」で集団的自衛権も行使できるようになった自衛隊を正当化し、さらに軍隊化を狙うものです。

改憲を批判する人たちの中には、国民投票で否決すればいいという意見もあります。しかし、憲法改正手続法には14日前までの広告規制がないため、資金のある改憲勢力に有利にできています。このような欠陥のある法律の下で国民投票を実施すべきではありません。必要なのは、改憲の発議をさせないこと、改憲NOの世論を作っていくことです。

この点で、九条の会も加わる安倍9条改憲NO!全国市民アクションが提起した3000万署名を成功させることが大事です。さらに、安倍政権が退陣すれば改憲策動は止まりますから、労組と市民と野党の共闘で安倍政権を退陣に追い込むこと。そして、何よりも日本国憲法の理念を実現することがまず先です。

(日本体育大学教授・憲法学、九条の会世話人)

# 国民は性急な憲法改正を望んでいない

保坂展人

安倍晋三首相は年頭記者会見で憲法改正について「今年こそ新しい時代への希望を生み出すような憲法のあるべき姿をしっかりと提示し、憲法改正に向けた国民的な議論を一層深めていく。自民党総裁として、そのような1年にしたい」と述べ、国会発議の実現に改めて意欲を示しました。また首相は2月14日の自民党大会の演説で「新規隊員募集に対して都道府県の6割以上が協力を拒否している」と語り、「憲法にしっかりと自衛隊と明記して違憲論争に終止符を打とうではありませんか」と呼びかけました。法令上、市町村長は自衛隊法第97条および同施行令第120条等に基づき、自衛隊からの適齢者情報の提供要請に応じる法律上の義務は存在しません。ただ名簿を提供していない自治体のほとんどが自衛隊側に住民基本台帳の閲覧を認めています。これを含めれば、自衛隊は9割の市区町村から個人情報の提供を受けていることとなります。首相の言う「協力を拒否」は事実を歪曲しています。事実をねじ曲げて憲法を語るべきではありません。



日本経済新聞社が昨年10月26～28日に行った世論調査によれば、国民投票の時期はいつがいいかという問いに「憲法改正には反対だ」が最多の37%で、前回の10月初旬の緊急調査の28%より9ポイント増え、「2021年以降」が24%、「19年中」が16%といずれも前回より2ポイント減り、「20年中」は12%と4ポイント減少しました。安倍首相が意欲を示す憲法改定への慎重論が強まっています。共同通信社が昨年4月末にまとめた世論調査によれば、安倍首相の下での憲法改正に反対は61%で、また自民党が改憲を目指す4項目全てで、「反対」「不要」の否定的意見が上回りました。性急な改憲論議に国民の抵抗感が強いことをあらためて示しています。こうした状況の中、この間立憲主義を踏みにじってきた安倍首相が改憲に前のめりになっていることに大変危うさを感じます。

いよいよ改憲法案の国会への提出が現実的になってきました。戦争に参加させないために、平和と憲法を守るうえでも、これからの運動は大変重要です。

2015年9月に安保関連法が成立し、戦争ができる国になりました。特定秘密保護法で都合の悪いことを国民に隠せるようになり、「共謀罪」法で国民を見張ることもできるようになりました。市民を黙らせて一定の方向へ向かわせる戦前と同じ流れを感じます。

これからも立憲主義を守り、戦争をさせないために、平和でありつづけるために、私も市民の一人として、声をあげていきたいと思います。

(世田谷区長)

# 2019年第1回世田谷区内九条の会交流会

1月19日(土)、2019年第1回の世田谷区内交流会が開かれ、烏山、代沢、桜丘、まつざわ、世田谷の5つの9条の会から8人が参加した。

はじめに、世田谷・九条の会事務局から、2018年1年間の主なできごとと1年間の主な活動が紹介された。

内政面では、森友・加計学園問題などでの公文書の偽造、証拠隠滅が明らかとなり、官邸に都合の良い行政操作が行われていた。その疑惑を晴らさないまま、多数による専横な国会運営がなされ、疑念の残る重要法案が次々と成立させられた。働き方改革法、TPP11、カジノ実施法、改正水道法、水産改革関連法、改正入管法等である。



防衛・外交関連では、韓国・北朝鮮首脳会談、次いで米朝首脳会談がもたれ、対話による朝鮮半島の緊張緩和が大きく前進した。一方で安倍政権は、年末には、総額27兆円にのぼる中期防(2019～2023)を閣議決定した。これには、自衛艦“いずも”の空母化、宇宙空間にまで拡大する多次元統合防衛力のほか、イージスアショア、ステルス戦闘機F35を105機追加して147機体制にするなど、米国から兵器を爆買いし、自衛隊の攻撃能力を格段に高める方針が含まれている。

沖縄では翁長知事の死去後、氏の政策を引き継いで辺野古新基地建設に明確に反対の政策を掲げた玉城デニー氏が過去最高の得票を得て当選し、県民の意思が改めて示された。にも拘わらず政府は12月14日には辺野古土砂投入の開始を強行した。2月に予定されている県民投票に対し、5市長(住民人口は全体の約30%)が実施しないと表明する(後に投票修正案で全県での実施が決まる)など、政府の切り崩し策とみられる動きも活発化している。

この1年、世田谷区内の大きな活動としては、それぞれの九条の会の定例宣伝行動に加えて、この間に定例となった戦争させない！九条こわすな！世田谷区民連絡会の春と秋の学習会(高田健さん、菱山奈帆子さん)および区民集会&パレード(500人、300人参加)がある。また、9月、12月には、区内全駅対象の一斉駅頭宣伝行動が3日間の期間を設定して取り組まれ、9月には294名の参加で758筆、12月には266名の参加で478筆の3000万人署名を集めることができた。

1/18に、事務局と1名の3名で、国士舘大学法学部の教員の紹介で学生4名と約2時間懇談した。学生が改憲推進派と反対派双方から意見を聞き、ゼミの学生間で憲法をめぐる討議を深めたいとの趣旨で、まず九条の会から意見を聞きたいとの要望があったものである。学生側からの質問の論点は、1) 憲法は現状のままでいいと考えているのか、2) 自民党改憲案で評価すべきところはひとつもないか、3) 憲法改正の規定は厳しすぎないか、4) 自民党の改憲案に反対なのか、

それとも憲法改正自体に反対なのか、5) 個人的に改憲したい部分はあるか、6) 自衛隊の在り方について、憲法は武力を持たないとしているが、今の自衛隊をどうとらえているか、であった。とくに学生には、今の自衛隊は、憲法の戦力不保持と矛盾していると思われるが、それでは自衛隊をどうするべきなのか、という疑問が強くあるようだ。

これに関連して、区内大学の門前でのシール投票に取り組んできた代沢の参加者から、宣伝後学内の学生食堂で、学生と懇談した経験が報告された。学生は、「門前で年配者が横断幕を掲げていたりするとむしろ反発を感じる。学生自身は、学内で学生同士が話したり、討論することが大事だとは思っているが、とてもやりづらい」という。他の参加者からも、「大学祭での、まじめな討論や学習を呼びかける企画は少なく、参加者も少ない。たしかに学生が「自由でない」印象を強く受けた、とのコメントがあった。学生への働きかけの必要性を改めて感じさせる機会となった。

引き続き各九条の会から、昨年1年の活動報告と意見交換がなされた。

### 【まっざわ】

隔月で学習会を開いた。参加者は約25名前後で、これが活動の中心となっている。新たに憲法カフェを2回開催した。参加者の発言を中心とした集まりで定着させていきたい。このほか、「ザ思いやり」パート1と2の映画を2回上映し、好評であった。今年も計画している。会報は昨年度より新スタイルで年6回(No.13からNo.18)、カラー印刷で各500部発行している。No.16では「安倍改憲の正体を暴く」を特集し、東京新聞に2,600部折り込みした。毎月19日に下高井戸駅頭で3000万署名と会報配布行動をしてきた。参加者が増えず悩みどころだが、コツコツ署名数は600を超えた。世話人会は、新たに3名加わり新体制となり、これから新年度の取り組みを話し合っていく。



### 【代沢】

毎月例会を開いている。ただ参加者は世話人+2~3名で推移。例会の内容を工夫して、たとえば天皇制などをテーマとすることも考えている。会報「掲示板」は1,500部に増やし、池ノ上駅とポスティングで配布。最近漫画を入れて、受け取りやすくなるようにしている。4月と11月に商店街のバザールがあり、9条の会として店を出して活動資金としている。シール投票は、各大学を対象に計22回やった。このシール投票は、よその区にも広がりを見せている。今年は同じ大学で繰り返しやってみたい。その際、学生食堂などに行って、学生に話しかけ、学生自身が考え、討論するきっかけとしたいと思っている。今後シール投票の担い手を増やしていくことと、結果をフィードバックする機会—今は“めぐせた”に広めてもらっているが—を何とか見つけていきたい。

## 【鳥山】

会員に登録している人は 250 名ほどいるが、事務局の補強に成功していない。そのため手間がかからない宣伝活動を中心に行っている。会として毎月「9 の日」宣伝、毎月 19 日は「オール鳥山宣伝行動」。年金者組合、新日本婦人の会、さよなら原発の会、9 条の会の共同として設定されて



いる。毎月の「鳥山ピースパレード」も定着している。他に年金者組合が毎月 25 日に「25 宣伝」として年金署名と 3000 万署名を合わせて実施している。これらは、いまや“地域の風景”のひとつとして定着している。70 回を越えている近現代史の学習会には、毎回 20 人前後が参加。明治維新 150 年が喧伝される中、歴史認識は基礎になる活動として重視

している。

## 【桜丘、めぐ・せた】

11 月はじめの区民センターまつりで、展示発表をした。服の販売などをしているお隣りさんやそのお客さんという“普通の人”と話ができる機会になっている。

桜丘としてではないが、市民グループで、「政権を変えなくてはいけない」という問題意識から、国会議員も参加しての経済政策の勉強会を議員会館でやった。第二回目も今月中に予定している。参加者からのアンケートも多く集まったので、それを議員に渡してきた。「政治を変える」ところに踏み込まざるを得ない。1 月末開催の通常国会で改憲発議される可能性はゼロではない。あとになってその対策を考えても間に合わない。いざ「国民投票」となった場合の対策として、元電通社員などの協力を得て、宣伝・広報の方策を検討し始めている。

【その他の九条の会】・・・出席いただけなかったので概要をわかる範囲でお伝えする。

【代田】(ホームページ参照 <http://www.daita-9jo.sakuraweb.com/>)

例年のように夏の終戦記念のつどい、秋に 10 周年のつどいを開いた。夏のつどいでは、鈴木郁子さんによる朗読と音楽が披露され、秋のつどいでは、九条の会世話人の清水雅彦さん(日体大憲法学)に講演いただいた。会としては主に下北沢駅で署名宣伝行動を行ってきた。月 1 回のニュース発行を続けている。

【成城・祖師谷】(ホームページ参照 <http://seijososhigaya9.web.fc2.com/>)

3 月 17 日に、ジャーナリストの吉田敏浩氏を招いて、「日本の憲法より上にある謎の権力構造の正体に迫る—日米合同委員会の解明—」と題する講演をしていただいた。参加者は 57 人だった。9 月に「9 の日ちらし」No.23(6 ページ立て)を発行した。また 11 月には、映画「コスタリカの奇跡」と星野弥生さんの話しを聞く会を開いた。この会には 62 人が参加した。

## 小森陽一 九条の会事務局長を招いて学習会開催

2月15日、戦争させない！九条こわすな！世田谷連絡会の主催で、上記の学習会が開催され、



約70名が参加しました。小森さんは、「改憲を止める平和の力～地域から世論を作ろう～」と題して、連合国の戦後処理から現在に至る政治の流れを詳しく解説しました。とくに安倍政権の狙いが、岸元首相が手掛けた日米安保体制絶対化を引き継ぎ、岸政治を復活させること、そのために、改憲勢力が国会で2/3を占めている今の機会を利用して、あらゆる情報操作・ねつ造を繰り返してまでも政権を維持し、「改憲」にまい進していることを軽視せず、多くの市民との対話を通して3000万人署名を有権者の2/3以上集める運動を継続し、達成しようと訴えました。

### 【アンケートから】

- 戦後の歴史の流れをあまり勉強していなかった自分に恥じ入るばかりです。遅いかと思いますが、今から学び直します。ありがとうございました。(60台)
- 日本の戦後の歴史を学ぶ事ができました。まだまだ学習不足を感じています。内容の濃い2時間でした。ありがとうございました。(65)
- 歴史をふまえてお話し頂きました。解らなかった事が沢山ある中、少しずつ解ってきました。ありがとうございました。(72)
- 日頃疑問を持っていたことを分かり易く解説して下さいました。1960年安保体制が始まりで、小泉時代もかかわっているという話はおどろきです。もっと勉強。北方領土の問題は、ロシアが返還しないほしい。アメリカの基地になると思う。憲法カフェを開いて参加していますが、日本政府の憲法違反を勉強していかなければ、と思う。(80)

## こどもと憲法9条

澤田 香織

私は保育園に勤めて日々子どもたちと過ごしています。そして毎年、原水爆禁止世界大会の時期になると子どもたちに戦争の悲惨な話をしています。絵本を読み聞かせることは一番子供たちが理解しやすいので必ず『かわいそうなぞう』を読みます。もう、何十回も読んでいてのにも毎回同じ所で涙がこぼれます。戦争のために動物園には動物を皆殺しにしろという命令が国からあります。そ

ここで、動物園は餌に毒を入れて一気に動物を殺しました。しかし賢いぞうは、毒入りの餌を見抜いて食べません。飼育係はぞうにえさを与えずに餓死をさせることにしました。賢いぞうは、今まで芸当をすると餌をもらえることを覚えていて空腹なのにふらふらになりながら芸当をします。涙を流しながら陰から見ている飼育員さん、そしてけなげな象の姿は涙なくしては語れません。毎回声を震わせながら読むと子どもたちは、その雰囲気と象の姿を見て泣き出す子もいます。

だから、戦争はしちゃいけないだよ。と話をします。「どうして戦争をするの？」

と子どもたちは聞きます。「戦争というのは、国と国のけんかだよ。自分が一番偉いんだよと言うためとか、隣の国の食べ物や道具や土に埋まっているものを横取りするためにけんかして人を殺すんだよ」とすると子どもたちは毎年変わりますが、必ず同じことを言います。「お友だちにおもちゃを貸して欲しい時は、ちゃんと貸してって言うんだよね。で、だめだって言われたら貸してくれるまで順番を待つんだよね。いけないよねたたいたら。」たった5～6年しか生きてこない子どもたちだって理解できることをどうして大人になると分からないのでしょうか？憲法を守らず変えようとするのでしょうか。2度と戦争はしませんってどうして言えないのでしょうか。私は、これからも『平和な世界』を守るために憲法集会・原水禁大会に参加して多くの人たちに伝えていきます。そして今日も私は『かわいそうなぞう』を、涙をながして読み聞かせをします。 (世田谷区職員)

## 自由が丘で「自由を叫ぶ」

池上東湖

今年で4年目を迎える「自由が丘だいこうしん」実行委員会は、ふとしたきっかけで生まれた。安保法制反対の声が高まっていたとき、自由が丘の治療院で、先生と患者の会話から始まる。「ひとりでも自由が丘の駅で署名したい」という先生の声を受け止めた患者が、当時、尾山台を中心に活動していた「安保法制に反対する会」のメンバーに相談したのがきっかけ。場所が目黒区なので、目黒の組合や市民団体にもよびかけて、準備会がもたれた。宣伝もしながら、自由が丘の駅をぐるりと歩くパレードを計画した。自由が丘駅の名称を、戦前、軍部が名称変更を迫ったときに、住民が跳ね返した経験のある街で、「自由」を叫びながらパレードをする。地元の警察も初めての事で、当事者も含めてあたふた。実行委員会に参加したNさんと知り合いのデザイナーさんの協力で作られた風船を掲げる子どもたちのチラシは、「だいこうしん」の楽しいイメージをつくり、参加を広げた。国会前で脱原発を訴える人たち、区内の大学前でのスタンディング、地域のお散歩デモ、肉球新党、隣接する大田区の地域の9条の会などロコミで広がる。去年は、「だいこうしん」をはさん

で6ヶ月、毎週火曜日、「安倍9条改憲NO!・3000万署名」行動を行った。駅前の書店の好意で、宣伝材料を預かってもらったこともあり、あまり無理をせず、毎回10数名は参加して、小雨でも屋根のある下で実施した。この組織のいいところは、集まった人のアイデアや意見で内容が決まっていくこと。心地よい。今年も6月にパレードと、街の「女神まつり」への参加者の特技を生かした「よろず相談コーナー」で参加する準備がすすんでいる。 (尾山台在住)

## 75年前の女学生

西村 恵子

### その2 アメリカ軍がやってきた

当時、女学校に進学するのはクラスに数人程度。小学校をずっと一番で通した人も女学校にはいきませんでした。担任の先生が放課後、受験する子たちの勉強を見てくれました。そんな時代になぜ母が女学校に行くことになったかと言えば・・・。

母は3人姉妹の次女。父親（私の祖父）は国鉄の機関区に勤めていましたが、母親（私の祖母）は病気がちで寝ている日も多かったので、娘たちには国民学校の高等科を卒業したら家の手伝いをさせるつもりでした。ところが、母の姉（つまり私の伯母）は小さい時からお裁縫が抜群にじょうずな人だったので、担任の先生がその才能を伸ばすべく女学校にやってほしいとわざわざ家まで訪ねて来られたのです。それで姉は新発田市にある女学校に行くことになりました。それも、お裁縫（和裁）をしっかり仕込むことで評判の、周囲からは「お嬢様学校」と目されていた私立の学校に。ところがすでに戦争でモノがなくなっている時代でしたから、着物用の反物など、いくらお金持ちのお嬢さんが多い学校とはいえ手に入らなくなっていて、結局着物をほどいて縫い直すようなことしかできなかつたらしいですが。



そんなわけで、ほかの娘たちも女学校にやらないわけにいかないと父親は思ったのでしょう。二番目の娘も進学することになったというわけです。姉とは別の村上にある県立の4年制の高等女学校でした。

家は新潟県の、現在村上市になっていますが、羽越線と米坂線の分岐点の坂町駅の近くでした。鉄道が主要な移動手段だった時代、「交通の要衝」的な場所だったようです。米坂線の沿線の小国（おぐに）という駅には軍需工場があり、ときどき東京から偉い人が来て坂町駅から米坂線に乗っていきました。工場への物資も運ばれていたわけですが、小国は山形県になりますが、山の中でよく霧が出て上空から見えにくいということで、軍需工場が作られたという話でした。

そこで、小国へ行くために重要な駅であった坂町駅が標的になりました。アメリカ軍の飛行機がやってきたのです。低空からの機銃掃射でした。その日家にいた母親（私の祖母）は大きな音に驚いたのでしょう。とっさに布団をかぶって逃げ出しました。飛行機が迫ってきて操縦するアメリカ兵も見えたそうです。幸い家の裏に大きなポプラの木があり、それが邪魔だったようで、それ以上飛行機はおりてこれず、近くの林の中に逃げ込むことができました。しかし、駅はやられました。駅のホームめがけての機銃掃射は熾烈で、犠牲者が出ました。当時、男性は兵隊にとられて人手が足りないため、女性の駅員が多くいたのですが、何人もが亡くなりました。動かなければよかったのに、逃げまどってやられた人もいたということです。新潟の片田舎の駅まで、アメリカ軍はしっかりと調べ上げてピンポイントで狙いに来たのでしょう。

そんな恐ろしいことがあったとは、学校に行っていた娘たちは知らずに家に帰ってきました。驚くべきことに、そんな爆撃があった後でも、汽車は通常通り動いていたのです。家に帰って、母親がかぶって逃げたという布団を見て、皆がびっくり仰天します。大きな花模様の表も裏も真っ赤な布団だったのです。上空からも思いっきり目立つであろうそんな布団をなんでかぶって逃げたのか、その時のうろたえぶりがわかるようですが、その布団を見て大笑いになった、というのは標的にならずよかったという安堵だったのかもしれませんが。（次号につづく）

## 【スクリーン】

成城・祖師谷九条の会が主催する映画会で「コスタリカの奇跡」を鑑賞した。中南米のコスタリカは隣国でのゲリラ活動などで、戦争に巻き込まれる恐れがあるように思っていたが、軍隊に頼らず、条約や国際法、国際機関との関



係を強化しながら、独自の安全保障体制を構築していると、紹介されていた。コスタリカは 1948 年に常備軍を廃止し、49 年には憲法にも規定し、現在に至っている。字幕が見づらかったのが難点。



映画の最初に、アメリカのアイゼンハワー大統領の演説（「平和に機会を」）を紹介している。今の大統領「トランプ」では考えられない言葉である。「銃を一丁作るのも、軍艦一隻の進水も、ロケット一基の発射も、盗みと同じである。飢えで凍える人びとを無視して行うからだ。小麦 2 千万リットル分の費用で戦闘機一機を買い、8 千人以上に家を建てられる費用で駆逐艦 1 隻を

買う。これは人の生き方ではない。人間性が試されている。」

この映画を見て、マッカーサーとの会談における幣原喜重郎の次の発言を思い起こした。これは最近見つかった 1957 年の憲法調査会の録音データで明らかにされた。

1946 年 1 月 24 日、幣原は GHQ 本部のマッカーサーの元を訪ねる。外交官出身で 英語が堪能だった幣原は、この日、三時間にわたってマッカーサーと二人きりで会談した。

幣原： 戦争を世界中がしなくなるようになるには、戦争を放棄するという以外にないと考えます

マッカーサー： そのとおりです

幣原： 世界から信用をなくしてしまった日本にとって、戦争を放棄するというようなことを、はっきりと世界に声明すること。それだけが日本を信用してもらえる唯一の誇りとなることではないでしょうか。

幣原から戦争放棄の提案を聞いたマッカーサーは、急に立ち上がって両手を握り、涙を目にいっぱいためていた、とされている。大戦直後は、日本国憲法前文にある「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起ることのないやうにする」という決意が、国を超えて共有されていたことを物語るエピソードだ。憲法の平和主義を、コスタリカなど、よその国と一緒にあって世界に広めることこそ、今の日本に課せられた課題ではないか。 (K.A.)

## 【春の俳句】

山形 三郎

2月4日より立春より、俳句の世界では、春となるが、景色は未だ冬。この時期は冬の盛りを詠う句と春を望む句が混在する。本格的な春の句は、3月以降となる。

- |                      |     |
|----------------------|-----|
| 「春寒し泊瀬（はつせ）の廊下の足のうら」 | 太祇  |
| 「春なれや名もなき山の朝がずみ」     | 芭蕉  |
| 「2月（ぐわつ）の東京多喜二殺めけり」  | まさを |

Fさん（初心者と自任している）の句より

- ① 「かじかむ手ごめんなさいねと署名簿に」
- ② 「氷雨打つにじむ署名簿こちらこそ」
- ③ 「手袋の子らの指さき富士の山」
- ④ 「家路急ぐ角を曲がりし鍋の香」
- ⑤ 「大寒過ぎ厚手のスーツはクリーニング」

失礼ながら少し、添削をしました。①②は、会話が入って、面白いアイディアの句。署名簿は、恐らく3000万署名か、反核或いは反原発の署名簿。「かじかむ」は冬の季語。「氷雨」は、今頃の雨で凍るような雨、と言っている積りだが、正しくは夏の季語で、雹や霰のこと。ここでは、「曇（みぞれ）が正しい。

「悴（かじか）む手詫びて反核署名簿に」「反核の署名簿滲（にじ）む曇（みぞれ）の日」。③は素晴らしい句です。小さな子供の指先と遠くの大きな富士山。対照が際立ちます。④「鍋の香や角を曲がりて急（せ）く家路」では如何。⑥「大寒に厚き上着と別れけり」では。

### 俳句の基本

- ① 景色を詠う。（景を描く）（味や匂いも含む）
- ② 季語を使う。
- ③ 5-7-5（定型）の歌を作る。

### 俳句と川柳の違い

- ① 「来る春は君が代わりて民惑ふ」（順さん）
- ② 「代かわり天皇よりもまずアベだ」（Kさん）

①が俳句で、②が川柳です。俳句は季語と切字（かな、や等）が入り、自然（社会も含む）を詠います。川柳は、人事が対象です。川柳は、重要な大衆の社会的文芸であり、尊重されるべき存在であることを忘れてはなりません。

## 【おたより】

戦争のない世の中が一番です。人々が協力し合うことで、人類の幸福と繁栄がもたらされます。戦争はそれと真逆の行為であることを世界は早く気づいて考えを改めるべきです。私の父は沖縄戦に行き、負傷しました。生きて帰れたので今の自分が居るのです。(Hさん)

## 【当面の予定】

- 3月8日(金) 生かそう憲法!・・・世田谷の会 千歳船橋駅 18:00～
- 3月17日(日) 戦争させない!・・・世田谷連絡会 区民集会&パレード  
10:00～ 世田谷区役所中庭 11:00～ 三軒茶屋までデモ行進
- 4月7日(日) 一斉地方選挙前半戦(都道府県知事・議会議員選挙) 投開票
- 4月21日(日) 一斉地方選挙後半戦(市区長、議会議員選挙) 投開票。
- 5月3日(金・祝) 憲法記念日集会 11:00～ 有明防災公園(東京臨海広域防災公園)
- 6月12日(金) 九条の会東京連絡会集会 18:00～ 中野ゼロホール
- 7月4日(日) 参議院議員選挙投開票

## 【編集後記】

- ☆ 2月8～10日、区内で第三波の全駅一斉宣伝行動が取り組みました。北風が強く、寒さの厳しい条件の下でしたが、21駅で、のべ147人が参加し、3000万署名154筆を集めることができました。参加された皆さん、おつかれさまでした。
- ☆ 今号には、日本体育大学の清水先生、世田谷区長の保坂さんからご寄稿いただきました。お忙しいところありがとうございました。
- ☆ ニュース原稿は、いつでも募集しています。お一人お一人の体験や、日々の出来事で思ったこと、感じられたことをお書きください。次号は2019年5月に発行予定です。800～1000字程度で、メールまたはFAXでお寄せください。俳句欄にも、皆さんの作品をぜひご投稿下さい。添削もしていただけます。
- ☆ 世田谷・九条の会は、皆さまからの寄金で、ぎりぎりの運営をしています。印刷と郵送費相当(年1口1000円)でも結構ですので、皆さまのカンパをお願いします。
- ☆ 編集作業中に、沖縄で県民投票が実施され(2/24)、辺野古新基地建設反対の意思が、知事選での票を上回る数で示されました。沖縄の皆さんと固く連帯してたたかいを広げましょう。

